

第二章 宗 教

一 神 社

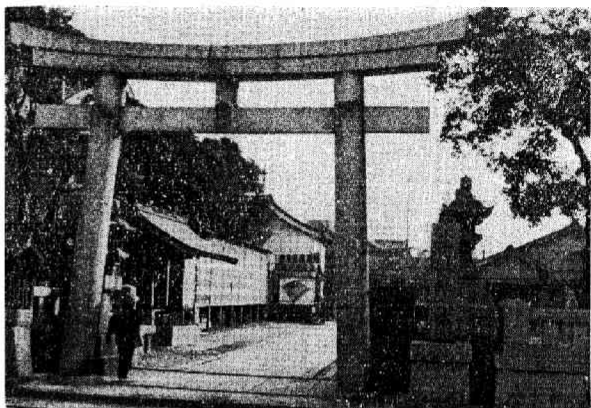
当区内に氏子地域をもつ神社としては、敷津松之宮神社・広田神社・生根神社・天満宮・津守神社の五社があるが、このうち生根神社・天満宮・津守神社および敷津松之宮神社西成社の四社が区内に所在している。このほか今宮の戎さんとして一般に知られている今宮神社や、もと別格官幣社で北畠親房公を祭神とする阿部野神社が近くに存在しそれぞれ例祭などでなかなかの賑わいをみせている。

生 根 神 社（玉出本通三丁目五〇）

当社は旧玉出町全町の氏神社であるが、もとは現存の住吉区住吉町の通称奥の天神社といわれる生根神社の分社で、いつの頃から分幣の上独立した。明治七年二月大阪府の許可を得て勝間村の産土神となり、村社に列し、大正七年二月神饌幣帛供進社に指定せられた。もとの住吉生根神社は延喜式内の社でのち住吉神社の攝社となり神宮寺の僧が奉仕来つていたが、明治に至って独立して郷社に列した。天神と称するのは、文明一四年二月（一四八二）社地に天満宮を祀り紅梅殿と称したことか、また奥の天神の名は大海社の奥にあるところから起っている。

当社と住吉
生根神社

生根神社



生根神社

当社祭神は、少彦名命・蛭見命・菅原道真公で、夏祭は七月二四・二五日、例祭は一〇月九日である。特に夏祭には「勝間台昇たかぐ」または「玉出の台昇」として知られる華麗な昇物が異彩を放っているが、この「台昇」については後述することとしたい。境内地は戦前六〇〇坪を有していたが、戦後大阪市の土地区画整理によって四五〇坪に減少した。しかし今次新社殿建造にあたり隣接地を買収して五〇〇坪となり、新社殿は総工費約五〇〇〇万円を投じ、鉄筋コンクリート造で建造、昭和四一年九月三〇日遷宮、同一〇月八・九日に奉祝祭を行った。建築面積は社殿三三坪、社務所（二階建）延一三三坪である。

氏子地域

玉出本通一―五丁目、玉出新町通一―五丁目、姫松通一―四丁目、辰巳通一―三丁目、田端通一―五丁目、千本通一―七丁目、南海通一・二丁目、新開通一―四丁目、潮路通一―五丁目、東・西皿池町

津守神社（津守町西五丁目八〇）

津守神社

当社は津守新田開発の当初五社の神を勧請して五所神社（五社大明神）といい、津守新田最北部小字宮屋敷に創祀されたものである。元禄一五年四月（一七〇二）の社地免租の古文書には稲荷神社と記せられているが、明和六年（一七六九）現在地に社殿を建立し遷座した。明治四年津守神社と改称、

同五年村社に列し、同四〇年神饌幣帛料供進社に指定された。文久元年、明治二七年改修屋根替を行ったが、昭和九年九月関西大風水害で社殿を造宮、境内を整備した。祭神は天照大御神・稲荷大神ほか三柱で、境内社三社がある。

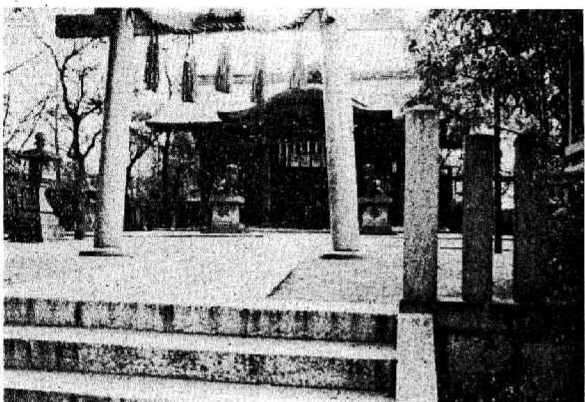
例祭 一〇月二日 春祭 四月二日

夏祭 七月二〇・二二日 火焚祭 十一月二日

氏子地域 津守町東一―九丁目、津守町西一―八丁目、桜井町

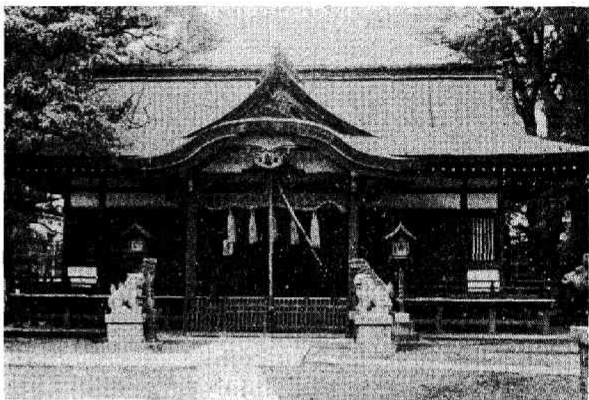
天 満 宮（天下茶屋三丁目九九）

天満宮
子安天神



津守神社

当社の創始年月は不詳であるが、茶道中興の祖武野鷗が茶室を構えた紹鷗の森の地である。社は北野天満宮の分霊を勧請し菅原道真公を祀り、一に子安天神、子安



天満宮

天満宮といわれる。これは社殿東方の樟樹のもとに靈石があり古来子安石と称し、妊婦がこれに祈ると安産のご利益があるとして賽者集ったため、豊臣秀吉も住吉詣の途次参詣し淀君懐妊の時、ひたすらその平癒を祈願したと伝えられている。現在の社殿は昭和一二年の新築落成であるが、もとの社殿は元禄一五年の造宮である。

明治五年村社に列し、四〇年一二月南区阪町の無格社天満宮を合祀した。

祭神 菅原道真公

境内社 八幡社・天照皇大神宮社・稻荷社

社殿 大原木造銅板葺平家建

ほかに拜殿・幣殿・神楽殿・社務所・絵馬舎

氏子地域 山王町一―四丁目、松田町一・二丁目、聖天下一

・二丁目、天神森一・二丁目、天下茶屋一―三丁目、北吉

田町、南吉田町、有楽町、松原通一―三丁目、岸松通一・二丁目（以上西成区）、共立通一・二丁目、丸山

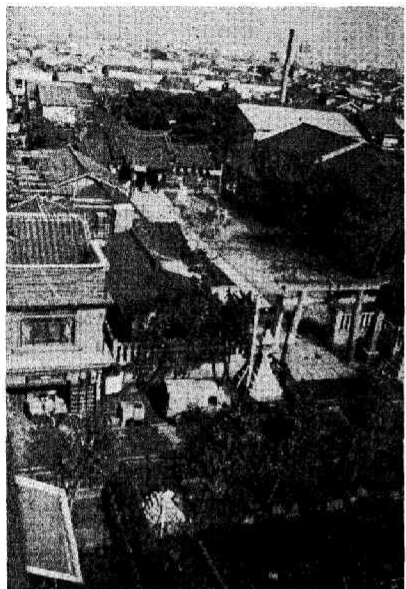
通一・二丁目、松虫通二・三丁目、相生通二・三丁目、橋本町一部（以上阿倍野区）

祭祀日 春祭 三月二五日 夏祭 七月二四・二五日 秋祭 一〇月二四・二五日 初天神一月二五日

敷津松之宮神社（浪速区敷津町二丁目二五）

同 西成社（西成区橋通五丁目三）

当社は元来木津の氏神である。社伝によれば「神功皇后三韓を平定せられ、凱旋の砌住吉の社を定めて鎮座の後、浦伝いに武内宿禰等を従え敷津浜を航し給える時、宿禰荒磯の岸に打寄せるをみて、今より後はこれを境にして潮満ち寄する事なかれとて松樹三本を渚に植え、素盞鳴尊を祀り松の宮と称した」のが当社の起源とある。



敷津松之宮西成社

清和天皇貞観八年（八六六）僧円如はじめて京都祇園牛頭天王を播磨国唐崎より勧請の途次松之宮に立寄ったところ当社の祭神も牛頭天王と同神であるところから、当社を祇園または牛頭天王社と称したという。維新の際八阪神社と改め、明治二六年六月改めて敷津松之宮と称した。なお当社のはじめて鎮座し給うた地は現本社所在地より南約一・六キロを隔てた区内四条ヶ辻にて、現在地に移建の時代は不明である。また境内攝社大国主神社は宝暦年間

出雲杵築の大社より勧請したもので、安置の神像は出雲大社と同様で甲子の日は開扉のことがあり、木津の大黒さんとして非常の賑わいを示している。

戦災後二四年四月社殿の建築が完成、大國主神社も本殿に合祀をみているが、区内橋通五丁目三に御旅所があり現在同社西成社となった。

祭神 素盞鳴尊・奇稲田姫命・八王子命・大國主命・事代主命・少彦名命

氏子地域 西四條一―三丁目、北開一―四丁目、中開一―六丁目、南開一―八丁目、出城通一―九丁目、長橋通二―九丁目、鶴見橋北通二―八丁目、鶴見橋通一―八丁目、旭北通二―八丁目、旭南通二―八丁目、梅通一―九丁目、梅南通一―九丁目、松通一―九丁目、橋通一―九丁目、桜通一―八丁目、柳通一―七丁目（以上西成区内）敷津町一―三丁目、大國町一―五丁目、鷗町・勘助町の一部、浪速町東一―三丁目、浪速町西一―三丁目、北高岸町の東部、三島町（以上浪速区内）

広田神社（浪速区広田町）

当社は今宮神社の北方約一〇〇メートルの地であって、もと四天王寺の鎮守で今宮村の産土神である。創建年月は不詳であるが、江戸時代には境内も広田の杜といわれ鬱蒼とした森で、頗る広く杜地の西方に紅白二種の萩を植えその辺りには茶屋があり萩の茶屋と称した。当区の萩之茶屋にはその茶店の分店があったといわれる。

撰津名所図会大成 巻之八

近年境内に桜樹多く植て殊更に美景なり。又茶店には萩あまた有て中秋の花の盛りには貴賤うちむれて甚賑

わし 今宮の萩とて年久しくこれを賞せり。且近年信心の願主等境内にあまた桜を寄付し植しより春は殊更美観なり

祭神 本朝天照皇大神

末社稲荷神社 宇賀御魂神

氏子地域 東田町、今池町、東西入船町、長橋通一丁目、鶴見橋北通二丁目、旭南通一丁目、旭北通一丁目、西四條一丁目、東四條一―三丁目、海道町、甲岸町、東・西萩町、花園町、三日路町、梅南通一丁目、曳船町、南・北神合町、南・北吉田町、松通二丁目、橋通二丁目の一部、苔山町（以上西成区内）東・西関谷町、船出町、南・北高岸町、広田町、日本橋筋五丁目、恵美須町、宮津町、水崎町、馬淵町、霞町、戎本町の一部（以上浪速区）

今宮神社（浪速区恵美須町三）

今宮神社

一般に今宮の戎さんとして大阪人に親しまれている当社は、特に氏子地域はもたず、社記によれば推古天皇の御宇厩戸皇子の創建となっている。兵庫県西宮市に宮幣大社広田神社と西宮戎社があるところから今宮は今の宮としてその分霊であるとの説もあるが、維新前四天王寺が管理しその関係も深かった。祭神は天照皇大神を中央に、左に蛭子命・大己貴命・右に素盞鳴尊・月読命の五座を奉祠しているが、蛭子命は市の神として江戸時代その祭の繁盛さが諸書に見えている。慶長一四年（一六〇九）一四石六斗四升五合の社領を賜わったが（のち若干増石）、明治三年二月上地して無格社となり、四〇年九月二六日同字地の無格社八阪神社・同稲荷神社を、四一年一月二七日和泉国泉南郡東葛城村

大字神於の村社市杵島神社を合祀して村社に列した。未社に倉稲魂神社がある。往時より宮司は津江氏が奉仕し、特段の氏地なく市民の崇敬で守られ来た。

戦災で社殿、古文書の殆んどを焼失し、現社殿は昭和二八年五月一日工費三八〇〇万円で着工、三一年一月九月竣工し翌日奉祝祭を行った。総坪八六坪の壮麗なもので、毎年十日戎には約二〇〇〇万人の参拝者を集めている。なお明治初年の神仏分離までは、四天王寺の守護神として毎年九月一七・一八日に祭礼があり、神輿が四天王寺の西門まで渡御し、西門前に神輿を置いて駕輿丁が帰社すると、四天王寺の僧侶がその神輿を奉じて神社に還幸し四天王寺楽人による舞楽奉納の神事があった。

阿部野神社（阿倍野区北畠西一丁目）

当社はもと社格、別格官幣社で、北畠親房公並びに顕家公を祭神としている。親房公（贈正一位）は後醍醐天皇の信任厚く吉野朝廷第一の柱石で正平九年九月一五日年六十二で大和国賀名生に薨じた。また顕家公（贈正一位）は親房の長子で元弘三年陸奥守兼鎮守府大將軍に任ぜられ皇子義良親王を奉じて奥州の鎮めとして下り大いに功をたて延元三年親王と共に海道の国々を平らげ奈良につき、それより攝州阿部野に戦い、同年五月二十二日年僅かに二十一才で薨せられた。

当社創建については、もと天王寺村大字阿部野（現在王子町三丁目一〇）に小丘があり大名塚と呼ばれ、そこに「別当鎮守府大將軍從二位権中納言兼右衛門督陸奥守源朝臣顕家卿之墓」と刻した墓碑の

半ば埋没せるものがあった。そこで明治八年頃祠を建設するべく有志が集まり当初天王寺村天下茶屋に社地を相したが、時の渡辺昇知事が隣接の住吉村岸野の地が人家を離れ高燥であることから適当として宮内省に上申、明治一五年一月二四日別格官幣社阿部野神社として鎮祭仰出された。一九年社殿成り二〇年三月三十一日勅使大阪府知事建野郷三参同して鎮座祭を挙行した。

昭和二〇年三月の空襲により祭器庫、手水舎を除き他の社殿のすべてを焼失したが、三一年七月二一日本殿竣工し正遷宮を挙行した。（拜殿二坪、渡殿一〇坪、本殿五坪計三六坪）なお境内地は三四六二坪である。

神事 例祭一月二四日 春祭 五月二二日（顕家公忌祭）夏祭 七月二一・二二日

秋祭 一〇月一八日（親房公忌祭）

生根神社の台昇

玉出の生根神社は前述のようにもと住吉村にあった郷社生根神社の分社と伝えられているが、同社の台昇は大阪府文化財の指定をうけ、夏祭には台昇が出て賑やかである。

台がく
台昇については生根神社の伝によると、往昔清和天皇の御代、早害著しく稲作、棉作ともに枯死寸前の状態となった時、農民が住吉の竜神大海神社前で日本六十六カ国の一の宮の御神灯六六張と鈴六六個をつけた高さ二八間のものを建て雨乞の祈願をしたところ、大雨をもたらしたので農民大いに喜び、これに台をつけて昇ぎ、太鼓を打って氏地を巡遊して神恩奉謝の意を表したのがその始めである

と。昔は玉出に一四台あったといわれ、明治初年には六台に減り、さらに五台となり、この五台もやがて廃止されたが、その後三台だけ復活し、東山町・山町・新町の三台が戦争前までつづいた。現在残る一台はそのうちの一台で岡山県下に疎開して戦火を免がれたが、他の二台は借しくも戦災で焼失した。

この台昇は、大和のすずき提灯や秋田の竿灯と同種のもので一本の竿に多数の提灯をつるし、現存のものは高さ一〇間(約一八メートル)の丸太棒を台の上に立て、その先端には大きな神楽鈴をつけそれより約一間(約一・八メートル)離れて下に白幣をつけた軸をつけ、さらにその下に二間離れて「ヒゲコ」をつけている。髯籠(ヒゲコ)はカラ傘の如く割竹を放射状に配ったものに紙を貼りつけたものである。このヒゲコを二段につけて六六個の鈴と町内安全・平和祈念等と書いた金縁の額を掛ける。額の下には御神灯と書いた提灯を一個つけ、これより下は二尺三寸間隔で三寸角の横棒が八本通り、それに六六個の提灯が下げられる。これら提灯の数は現在は七九個であるが、台昇の規模により数は一定しなかったらしい。丸太棒はその下部が台の中に入り込むようにつくられ、回転するようになっている。これは台昇が非常に高く不安定なものであるから真正面から風を受けると倒れるおそれがあり、回転して向きを変えらるることにより風を避けるように造られているものである。台の構造はかつぐのに都合よく考えられているが、現在では立てておくだけで、かつぐことはなくなった。以前は八〇ないし一〇〇人位でかついだものである。

台がくは玉出ばかりでなく木津・田辺・天下茶屋などの付近一帯にもみられ、中でも敷津松之宮神社の祭にでるだいがくが有名であった。これは七月一六・一七日の京都祇園会と同時に行われたもので、木津六カ町から各々青年男子数百人にてかつぎ出され、夜空に華やかな彩灯を描きその美観は言語に絶したといわれる。しかし電信電話線が出現し明治三〇年頃廃止されるに至った。

二 寺 院

区内の寺院で由緒あるものは主として玉出方面と天下茶屋方面に偏在しており、その他のものはおむね他地から移転して来たものである。玉出には俗に玉出四カ寺と称し光福寺・長源寺・誓源寺・善照寺があり、天下茶屋には尼寺安養寺がある。このほか区界近くに聖天山として知られる正円寺がある。

光 福 寺 (玉出本通三丁目七四)

光 福 寺

吉祥山光福寺と号し、真宗仏光寺派に属する。創始は、同寺によれば嘉祥元年(八四八)小野篁の発願により、奈良興福寺の別院として住吉玉出の里に創建、松林山興福寺と号したが、元応元年(一三一九)門信徒の要請により建物のすべてを勝間村に移し光福寺と改めた。元弘二年(一三三二)時の住職円禪上人、真宗仏光寺派了源上人に帰依し宗派を真宗と改めこれを当寺の中興とした。寺宝・古文書等は元和元年(一六一五)大坂夏の陣を避けて高野山に疎開させたところ疎開先で火災にあい、

勝間御堂
院家寺院

その殆んどを焼失、さらに太平洋戦争で残る諸物品も堂宇と共に戦火を受けすべてを焼失した。
なお旧幕時代には仏光寺門跡に所属する院家寺院として攝津の国院家と称され「勝間御堂」と称された。院家とは門跡寺院に所属する寺院のみが称し得る名称で国院家とはその地方を代表する門跡寺院所属の寺ということで当時は大名等と同等の資格を有したという。

大江元定

また境内墓地に「大江先生之墓」なるものがあり、これは大江元定（通称島右衛門）の墓で、無端齋土肥安信（また積翠堂と号す）を師とし、揚心神道流の剣柔二道にすぐれ、吉田流の弓術をよくし後紀州侯に召抱えられ、勝間村に道場を開いて多くの子弟を薫陶した。寛政一一年（一七九九）九月、五七歳で没した。

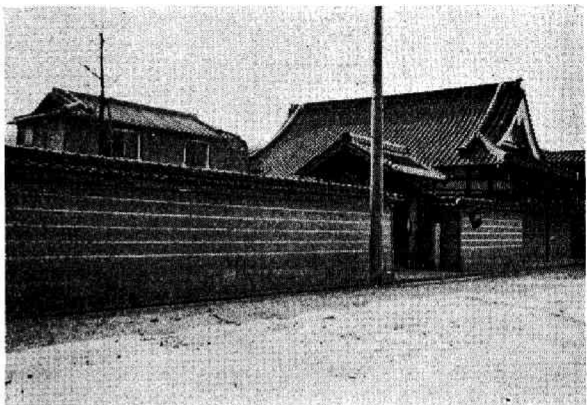
長源寺

光福寺

長源寺（玉出新町通三丁目三二）

永禄元年（一五五八）の創建で真宗大谷派に属す。

小最
学初
校の



本堂は戦災で消失したため現在仮本堂である。同寺の開基が誓源寺と同じであり、また明治六年二月には勝間村最初の小学校仮校舍として使用されたものである。海

東山と号す。

誓源寺（玉出本通三丁目三八）

開基は長源寺と同様円真、天来山と号す。永禄元年（一五五八）の創建といい、長源寺を分つというが、長源寺は誓源寺を分つという。戦災のため堂宇を焼失、現在仮本堂である。

善照寺（玉出新町通四丁目二五）

浄土真宗本願寺派に属し、旭日山と号する。慶長二年（一五九七）創建、元和四年（一六一八）一月四日本願寺派に属する。慶長一四年（一六〇九）片桐市正当地を檢地の際休息所に使用され、その礼として三畝一四歩の土地を与えられたと伝える。享保二年（一七一七）本堂改築、明治一四年寺坊改築、さらに昭和一二年書院鐘楼等新築し諸設備を完備したが、二〇年三月一三日戦災のため本堂・庫裏書院を焼失、残存の門長屋・鐘楼・土蔵・手洗所等で宗教活動をつづけ、二七年一月二〇日仮堂成り、三六年一〇月二五日本堂を新築した。現在本堂間口四間半奥行六間半

安養寺（天下茶屋三丁目六四）

元禄二年（一六八九）三月一四日開基貞誓清薫尼の創立、昌芳山善心院と号し、浄土宗知恩院派の一心寺の末寺に属し、当時幕府より扶持を受けていたという。寛保三年（一七四三）九月安養寺と改めたが、寛延三年（一七五〇）二月末に類焼、宝暦二年（一七五二）九月四日再建、この業に当たった四世智円尼を当寺の中興の祖とする。明治二〇年四月二〇日失火により本堂、庫裏を焼失同二二年一〇



安養寺

二月まず庫裏を、ついで二三年五月一日に本堂を再建した。本尊阿弥陀如来の坐像は宋の仏師陳和郷の作ともい
い三千仏堂、大仏堂と称する一堂（鉄筋コンクリート造）
の中に安置してあったが、戦災にあい本堂とともに焼失
した。現在の建物は昭和二五年四月から着工、同三四年
三月完成したもので、本尊は阿弥陀仏である。
なお境内には、紙治おさんの墓、鯛屋貞柳（油縁斎）
手植の柳、関取猪名川の墓および佐藤魚丸（魚鷹）の墓
がある。

おさんの墓

貞柳の柳

鯛屋貞柳は、狂歌師で油煙斎また油縁斎貞柳と号し享保年間の人、始め良因と称した。姓永田、享保一九年八月一五日没

猪名川の墓

関取猪名川は江戸末期の著名力士

魚丸の墓

佐藤魚丸は蝙蝠軒魚丸と号し寛政年間の人、鯛屋貞柳の流をくむ狂歌師である。

聖天山

正 円 寺（阿倍野区松虫通三丁目六六）

当寺は聖天山として知られるが、海照山正円寺と号し現在真言宗東寺派に属する。寺伝によると天慶二年（九三九）権化光道大和尚の開基で磐若山阿部寺の一切であったといわれている。その後行脚僧の住持となり八宗兼学であったが、天明年間京都の僧常如来住して再興し現名称に改めた。大聖歎喜天尊を安置するが、これは淳和天皇の御宇慈覚大師入唐の折、阿部寺にて船待せられ、ある夜の夢に気高い男女二方影向せられ、大師に宣して、「我は大聖歎喜天尊なり。道俗済度のため化身仏となつて出現せり。汝宣して道俗男女に対して和合利益の本能を示すべし」と告げられ、大師肝に銘じ、直ちに靈木を得て影向の尊像を刻し、阿部寺に奉安せられたのが、すなわち当寺の本尊である。

寄松塚

境内に寄松塚あり。聖武天皇が国家鎮護のため靈宝をここに埋め、松を植えたところと伝えられ、聖武帝山と呼ばれたという。後の僧が歎喜聖天を祀り、聖天山と転じたともいわれている。寄松塚は一幹八枝の奇妙な大松樹で、よってこれを寄松塚と呼び、また世人八本松とも呼んだが、昭和二〇年三月焼夷弾をうけ焼木と化した。この八本松には童王が在住し、家業繁栄、商売繁昌の利益ありとして世に知られている。

八本松

このほか雄崎国丸の狂歌塚、兼好法師の薬打石（一名夜泣石）および茶聖武野紹鷗遺愛の手水鉢がある。

法祐寺

阪町天神

法祐寺（旭南通七丁目一八）

当寺はもと南区阪町にあり光昌山と号し浄土宗源聖寺末で阿弥陀仏を本尊とする。創始は元文二年（一七三七）五月。明治二八年一〇月一八日本堂・庫裏・書院・土蔵を焼失し、同三五年七月一日本堂を再建その後庫裏等をも再建したが、やがて周囲の風俗芳しからずとして尼寺である当寺は廃止されることとなり、大正一二年現在地へ移転したものである。当寺が阪町にあるころには境内に無格社天満宮があり同社は俗に阪町天神と呼び一名火除天神の名があり、その由来は付近人家が数度火災にあったにもかかわらず当寺はこれを免れ、同社鎮座のためであるところからという。同社は明治四〇年一二月二三日天下茶屋紹鷗森の天満宮へ合祀された。

当時の名残りとして今も本寺に「天満宮」と刻した石灯籠一対が残っている。

その他の寺院

寺院名	所在地	宗派	創建年	月	関係	事項
本竜寺	旭南通三一	本願寺派	昭和二九・九	一	創建	花園保育園を併設
寿光寺	岸松通三一二〇	浄土真宗本願寺派	天文九年		創建	山城国乙訓郡西今邑に開基、極楽寺と称す。慶安四年（一六五一）大坂市街に移転、元禄七年（一六九四）山手山寿光寺と改む。大正一四年三月東区北新町から現地へ移転。境内三〇〇坪・本堂庫裏・書院一〇六坪五
遠景寺	山王町三一二八	浄土真宗	昭和四・四		創建	
聞教寺	長橋通四一二	浄土真宗本願寺派	大正三・一〇	一五	創建	

円照寺	松通九一	浄土真宗本願寺派	大正七・一〇	一	創建	当初真宗木辺派として発足、昭和二三年一月浄土真宗本願寺派に転属、鉄筋コンクリート造本堂昭和三六年一二月竣工。
教善寺	柳通五一	浄土真宗本願寺派	昭和三五・一〇		創建	昭和四年広島県西条町教善寺の別寺として教会開設
行円寺	山王町三十三五	浄土真宗大谷派	昭和三・五	五	創建	境内に推定三〇〇年前のものといわれる不動明王あり、昭和一二年津守町の地下数尺から掘り出したもの。
西宝寺	聖天下二一六	浄土真宗	大正二・三	二二	創建	昭和一一・六・八福島区海老江上一二二五に宗教結社善行寺創建、戦災で全焼、一時中断後松田町一七に再建、昭和三二・六・七現在地に移転
善行寺	津守町東七一三五	浄土真宗	昭和二七・六	一五	創建	昭和三二・一・二東住吉区から現在地に移転
常福寺	柳通七一	真言宗	昭和二二・二二		創建	

三 その他の宗教

イ キリスト教

キリスト教

宗教法人日本基督教団	西四条一	一五	昭和五・五	一	設立	当初第二自由メソジスト教会として橋通四に設立、昭和五・三日本自由メソジスト天下茶屋教会と改称、柳通五一へ移転、昭和七日本基督教団大阪西天下茶屋教会と改称、昭和二三・四現在地に移転、昭和二七・一〇現名称に改称、児童福祉法による聖化保育園を経営。
岸之里基督教教会	千本道六一		大正二一・一一	六	設立	

- 在日大韓基督教 梅通五―二 創設不明 戦前今宮教会として存在
- 大阪西成教会 岸松通二―一九
- 日本基督教団 同
- 玉出教会 天神森一―二一
- 同 天下茶屋教会 南開六一―四
- 同 西成教会 橋通三一五
- 日本聖公会 同
- 大阪聖ヤコブ教会 同

鶴見橋教会

まず日本基督教団鶴見橋教会は国道二六号線沿いにあり、昭和五年五月一日鶴見橋通四丁目六に教会を開設し宣教活動を始めたもので、のち現在地に新築移転した。昭和三八年一月隣保事業大阪神愛館を公益事業として開設、このほか青少年中高生徒のための教会学校等を開校、約三〇〇名が当教会で受洗した。

岸之里教会

つぎに日本自由メソジスト岸之里教会は大正一一年一月六日橋通四丁目に設立、第二自由メソジスト教会を称したが、昭和五年三月日本自由メソジスト教会天下茶屋教会と改称し、柳通五丁目九へ移転した。のち一六年七月日本基督教団大阪西天下茶屋教会と改称し、二三年四月千本通六丁目に移転、さらに二七年一〇月日本自由メソジスト岸之里基督教会と改称したもので、現在牧師一名伝道師一名、教会員一八九名を有し、児童福祉法による保育所聖化保育園を経営している。

大阪西成教会

戦前よりあるがその創設年月不詳のものとして在日大韓基督教大阪西成教会があり、戦前は今宮教会と称していた。戦災にあい旭北通八丁目に再建したがのち現在地に移転した。教会員一二〇名程度で区内在住の韓国人に布教活動を行っている。

口 その他の宗教

天理教 大阪教区西成支部 松田町一―一五 大正二二・六・二八創設

金光教 恵美須教会 山王町二―四五 昭和三三・一一・三〇創設

区内に三九の分教会をもつ。そのうち設立時期の最も古いものは明治三三・六・三〇の高都分教会である。

- 金光教 天下茶屋教会 橋通二―二 明治四二・一二・二創設
- 同 今宮教会 鶴見橋通四―六 昭和七・一〇・二三創設
- 神理教 明教会 柳通五―五 昭和二五・一一・二五創設
- 宗教法人 大本大阪本苑 聖天下二―四 昭和三二・六・二八創設

当初天下茶屋二―五に開設し、昭和三六・四・二三現在地に新築移転信奉者約六〇〇石、教会長一名在籍教師三名

浪速区恵須町二―九六で戦災焼失二二・二五現在地に移転

・九山王町一―一五に移り二五・八・二一現在に移転

当初長橋通三―九に開設し昭和二一・一現在に移転

天照皇大神を主神とす。本部北九州市小倉区にあり。

1 天理教分教会一覽

分教会	所在地	開設時期	分教会	所在地	開設時期
持尾	旭南通八―一三	昭和一一・一〇・一九	竹浦	梅南通三―四	昭和三三・一〇・三
国際	旭南通八―一七	昭和二三・五・二六	洲阪	梅南通九―三	昭和三三・一一・一九
清津	梅南通二―九	大正元・一一・一七	菰野	甲岸町一―二	昭和三〇・二・二六
佑盛	梅南通二―七	昭和三三・一・二五	玉舟	桜通三―四	昭和三三・七・二三

瑞竜	桜通六一七	昭和四・七・八
市岡	山王町二一六	大正一〇・一・二五
中恵	山王町三一二五	大正一一・三・二三
阪里	山王町三三五三	大正一一・七・三
高里	潮路通一一四	昭和二・八・九
高都	潮路通一一七	明治三三・六・三〇
島台	潮路通三一六	昭和四・二・五
東桃陽	潮路通三一七	大正九・一〇・二八
神合	潮路通四一九	大正一四・二・一一
阪陽	新開通一一八	大正四・四・二九
明四十二	新開通四一一七	昭和一〇・八・二五
堺華	千本通四一九	大正五・六・一
台州	天下茶屋二一七	昭和五・七・三
法本	天神森一一三五	大正二・一〇・一八
津守	津守町東三一五	大正四・六・七
高鶴	鶴見橋北通八一	昭和五・一・一〇

堀新	千本通五十三一	大正一一・七・一
浪速真陽	千本通七一六	大正二・一〇・一〇
尚久	姫松通一一三四	昭和一〇・二・二五
飛田	松田町一一五	大正二・六・二八
梅ヶ枝	松田町一一六	大正三・二・一七
愛大	松田町二二六	昭和九・五・一六
明鳴	松田町二一五〇	大正二・二・二三
清泉	松通一一五	大正一〇・一〇・一六
冷水	神合町一四	大正二・三・三一
浪速	南神合町三六	昭和二八・一・二六
東靖	田端通一一〇四	大正一四・六・五
姫崎	玉出新町通一一一	昭和三・一一・一九
関西	鶴見橋通四一一六	明治四四・七・九
摂陽	鶴見橋北通二一四	大正一一・三・一一
恵美	鶴見橋北通六十六	大正二・一・一九
岡萩	柳通六一五	大正一一・三・一三

2 寺院一覽(前述のものを除く)

名	稱	所在地	備考
西教	寺	旭南通二一四	浄土真宗本願寺派
西願	寺	旭南通六一三	同
明源	寺	旭南通八一五	同

名	稱	所在地	備考
順正	寺	新開通四一一	浄土真宗本願寺派
徳乘	寺	千本通三二二八	同
浄福	寺	鶴見橋北通四一二	同

浄満	寺	旭北通一一四	同
松向	寺	北開四一一	同
仏現	寺	西入舟町一八	同
正楽	寺	三日路町二〇	同
浄安	寺	橋通二二三	真宗大谷派
願行	寺	津守町東四一九四	同
金剛	寺	姫松通一一二三	同
正信	寺	新開通一一七	真宗興正派
一念	寺	西今舟町八	同
宝光	寺	東今舟町八	同
浄福	寺	東田町六五	同
西蓮	寺	潮路通二二〇	高野山真言宗
三宝	院	千本通四一一	同
恵満	院	天下茶屋一一三四	同

極楽	寺	出城通九一七	同
阿弥陀	寺	西四條一一一四	同
観音	寺	津守町東五十九八	高野山真言宗
清正	寺	西皿池町三一	同
善光	院	天神森一一三六	光明真言宗
妙導	寺	玉出新町通二四一	法華宗真門派
信光	寺	桜通二一七	本門仏立宗
正福	寺	千本通三二二五	日蓮本宗
月照	寺	出城通八一三	天台宗
漢山	寺	長橋通七一一五	単立
光言聚楽	寺	東萩町三九	単立

付録 一 参考統計

- イ 当区人口の推移
- ロ 当地区別人口(昭和四〇・一〇・一現在)
- ハ 当区町名別人口(" ")
- ニ 当区本籍人口
- ホ 外国人登録人口推移
- ヘ 当区学校現況調
- ト 当区事業所概況
- チ 産業別調
- リ 組織別・規模別調
- ル 就業人口調(昭和三五・一〇・一現在)
- ロ 職業分類(大分類)別 一五才以上
- ハ 産業分類(大分類)別 一五才以上
- ニ 常驻地によって区分した従業・通学地別
- ホ 一五才以上就業者および通学者数(昭和三五・一〇・一現在)
- ヘ 当区市税収入額調
- ト 当区内火災発生状況
- チ 区内年次別法定伝染病発生数調
- リ 環境衛生・食品衛生主要施設調
- ル 戦後各種選挙投票状況調
- ロ 保安関係従業者数調
- ハ 投票区別有権者数調

地区	世帯数		人口	
	世帯数	人口	男	女
弘治	三、七二五	一、二、一三二	五、八二九	六、三〇三
長橋	四、一九九	一、六、一六八	八、三三九	七、八二九
萩之茶	四、八八一	一、六、一一〇	九、〇三二	七、〇八八
今宮	六、二二六	一、八、八一〇	九、五〇七	九、三〇三
松宮	三、〇一三	一、九、六二二	九、六五四	九、九六七
梅南	二、六二五	一、一、九八二	六、〇一六	五、九六六
玉出	四、五七四	一、三、七二二	五、〇二九	四、六九二
岸里	七、一三七	二、〇、三二八	六、三九九	七、三一八
千本	五、五四一	一、九、〇五二	九、五二九	一、〇、八一二
津守	一、四三八	一、九、〇五二	九、五二九	九、五二九
南津	二、八一六	一、〇、五二二	三、〇五二	二、七六〇
北津	一、六四四	一、〇、五二二	三、〇五二	二、七六〇
山王	三、四七六	一、〇、四三九	五、〇二六	五、四一三
飛田	六、六二二	一、〇、九五七	八、〇五	一、一五二
天屋	六、六一六	二、〇、〇一四	九、六二八	一、〇、三八六
水下	一、四	三、一	九、六二八	一、〇、三八六

口 当区地区別人口(昭和四〇・一〇・一現在)

イ 当区人口の推移

年次	調査種別	世帯数	人口総数	男	女	備考
大正14	国調	33,280	137,632	71,094	66,538	備考面積 7.20 km ²
昭和5	"	38,506	167,879	87,449	80,430	7.08 km ²
" 10	"	44,755	203,530	106,736	96,794	
" 15	"	49,318	215,828	111,880	103,948	
" 16	市民調査	50,144	210,371	105,602	104,769	
" 17	"	49,100	202,247	100,170	102,077	
" 19	人口調査	47,634	191,604	90,933	100,671	7.41 km ²
" 20	"	24,825	88,054	43,756	44,298	
" 21	"	28,947	105,421	51,379	54,042	
" 22	臨時国調	33,116	122,632	59,994	62,638	
" 23	常住人口調査	34,315	131,860	64,703	67,157	
" 25	国調	37,668	151,509	74,279	77,230	6.77 km ²
" 27	住民登録一斉調査	40,765	166,941	82,207	84,734	
" 28	推計人口	43,700	179,100	88,100	91,000	
" 29	"	(42,524)	(175,374)	(86,261)	(89,113)	※1
" 30	国調	45,266	188,652	93,364	95,288	7.42 km ²
" 31	推計	(58,588)	(192,230)	(95,166)	(97,064)	※2
" 32	"	(59,474)	(192,568)	(95,406)	(97,162)	※3
" 33	"	(61,481)	(196,091)	(96,675)	(99,416)	※4
" 34	"	(62,772)	(196,260)	(97,830)	(98,430)	※5
" 35	国調	46,200	198,700	99,100	99,600	
" 36	推計	(67,585)	(201,410)	(101,665)	(99,745)	※6
" 37	推計	57,600	215,300	108,900	106,400	
" 38	推計	57,700	215,700	109,400	106,300	
" 39	"	57,500	214,900	109,400	105,500	12月1日現在
" 40	国調	57,400	214,600	109,400	105,200	7月1日現在
" 40	国調	64,193	212,819	106,478	106,341	

備考 ※1 29.9.15現在市民調査+外国人登録数
 ※2 31.3.31現在住民登録人口
 ※3~※6 毎年3.31現在住民登録人口

昭和22年以前の国勢調査および人口調査はすべて現在人口、昭和16年17年の市民調査並びに昭和23年常住人口調査及び昭和25年国勢調査は常住人口がとらえられている。表中、国調とあるは、国勢調査の略。

調査の期日は国勢調査はすべて10月1日現在、16年市民調査は7月15日、17年市民調査は8月15日、19年人口調査は2月22日、20年人口調査は11月1日、21年人口調査は4月26日、23年常住人口調査は8月1日現在である。

昭和17年調査以前の人口は、いずれも調査当時の名称により表示したものであり、従って現在の区の区域における人口を示すものではない。

外国人登録国籍別一覧 (39.8.31末現在)

国籍	世帯数	人口
朝鮮及び韓国	2,169	8,971
アメリカ	89	293
イギリス	2	5
フランス	4	4
ドイツ	0	3
オランダ	1	3
ベルギー	1	3
ギリシャ	3	4
イタリア	1	1
ポランド	1	1
スペイン	1	1
スウェーデン	0	1
スイス	1	1
タイ	0	1
フィリピン	0	1
その他	0	1

表中、世帯数0とは、日本人世帯等に同居しているため世帯数に表われないものである。
 朝鮮および韓国は各別の数を公表することが出来ないため、合わせて表示している。

へ 学校の現況 (資料「学校基本調査」)

1. 幼稚園 40.5.1現在

園数	教員数	職員数	幼児数			新年度入園者数			前年度修了者数			
			総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	
市立	3	23	9	754	399	355	522	270	252	490	260	230
私立	5	38	8	1,055	550	505	722	380	342	768	404	364

2. 保育所 39.5.1現在

所数	保育所数	保母数	職員数	幼児数			新年度入所者数			前年度出所者数		
				総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
市立	4	16	6	275	146	129	170	91	79	149	85	64
私立	6	34	12	592	366	326	393	203	190	306	167	139

3. 小学校 40.5.1現在

学校数	教員数		職員数		児童数			外国人児童数	再掲数	学校医	卒業者数				
	総数	男	女	総数	男	女	男				女				
市立	15	429	229	200	111	47	64	14,550	7,502	7,048	940	356	59	1,337	1,318
私立	1	12	9	3	—	—	—	202	96	106	202	6	2	18	22

4. 中学校 40.5.1現在

学校数	教員(本務)		教員(兼務)		職員数	生徒数			学校医数(含む)						
	総数	男	女	総数		男	女								
市立	6	291	197	90	4	2	2	36	25	11	7,753	4,142	3,611	183	23

5. 高等学校 40.5.1現在

学校数	教員(本務)		教員(兼務)		職員数	入学定員	入学志願者	生徒数			学校医数(含む)			
	総数	男	女	総数				男	女					
府立(全日制)	1	88	85	3	—	—	—	25	484	487	1,399	1,395	4	3
(定時制)	1	54	53	1	6	5	1	15	352	507	1,150	1,150	—	—

6. 各種学校 40.5.1現在

学校数	昼夜間別		教員数			生徒数		
	昼	夜	総数	男	女	総数	男	女
私立	9	8	92	35	57	1,841	468	1,373

7. 各種学校の設置者別 単学校法人 2 財団法人 1 その他 6

8. 各種学校の課程 和洋裁、簿記、珠算、語学、予備校、理容、美容

(注) 各種学校とは、学校教育法第1条の学校以外のもので学校教育に類する教育を行なうものをいい知事の認可するものである。(学校教育法83条)

二 当区の本籍人口

昭和	本籍数	本籍人口	備考
29	33,129	115,951	30.3末現在
30	34,213	133,551	各年度末現在
31	35,205	136,527	
32	36,337	138,622	
33	37,586	141,164	
34	38,905	143,802	
35	41,305	145,658	
36	42,961	148,003	
37	44,212	151,030	
38	45,013	157,545	
39	45,591	159,568	
40	45,973	160,905	

ホ 外国人登録人口の推移 (西成区)

年次	総数			朝鮮		中国		その他	
	総数	男	女	男	女	男	女	男	女
28	6,403	3,579	2,824	3,411	2,693	165	125	3	6
29	6,839	3,807	3,032	3,625	2,887	178	137	4	4
30	7,237	4,040	3,197	3,848	3,059	185	134	7	4
31	7,727	4,282	3,445	4,084	3,298	192	144	6	3
32	8,154	4,518	3,636	4,321	3,480	188	143	9	13
33	8,436	4,689	3,747	4,493	3,595	188	143	8	9
34	8,664	4,808	3,856	4,610	3,697	193	152	5	7
35	8,866	4,926	3,940	4,724	3,779	191	147	11	14
36	8,967	4,956	4,011	4,754	3,859	180	140	22	12
37	8,972	4,956	4,016	4,764	3,864	187	142	5	10
38	9,114	4,993	4,121	4,813	3,975	174	134	6	12
39	9,301	5,033	4,268	4,869	4,125	158	130	6	13
40	9,324	5,026	4,298	—	—	—	—	—	—
41	9,327	4,988	4,339	4,829	4,200	153	126	6	13

(注) 本表は、外国人登録法による各年3月末現在の外国人登録人口で外国人登録国籍別人員調査月報によっている (ただし40年は6月末、41年は11月末)

なお、外国人とは、外国人登録法による日本の国籍を有しない者のうち、出入国管理令の規定による仮上陸の許可、観光のための通過上陸の許可、転船上陸の許可、緊急上陸の許可、および水難による上陸の許可を受けた者以外のものをいう。

登録切替第1回は、昭和25年1月に以後第2回は27年9月、第3回29年9月、第4回31年10月、第5回34年9月・10月、第6回37年8月～12月にそれぞれ行なっている。

力 戦 後 の 各 種

選 挙 名	有 権 者	
	男	女
昭和21.4.10執行 衆議院議員選挙	25,607	26,598
22.4.5 知事市長選挙	31,962	33,393
22.4.20 参議院議員選挙	33,669	35,255
22.4.25 衆議院議員選挙	33,669	35,255
22.4.30 府会、市会議員選挙	31,864	33,182
23.10.5 大阪府、市教育委員会委員選挙	33,046	35,226
24.1.23 衆議院議員選挙	35,343	38,906
25.6.4 参議院議員選挙	36,969	40,699
24.11.10 大阪府、市教育委員会委員選挙	37,477	41,008
26.4.23 市会、市長選挙	39,686	43,954
26.4.30 府会、知事選挙	40,332	44,626
26.5.16 参議院地方選出議員補欠選挙	41,986	46,702
27.10.1 衆議院議員総選挙	49,671	54,365
27.10.1 最高裁判所裁判官国民審査	49,671	54,365
27.10.5 大阪府教育委員定例選挙	43,218	47,297
27.10.5 大阪市	43,218	47,297
28.4.19 衆議院議員総選挙	47,474	51,804
28.4.24 参議院議員通常選挙	47,457	51,773
28.9.10 市会議員西成区補欠選挙	47,630	52,011
30.2.27 衆議院議員総選挙	49,620	54,426
30.2.27 最高裁判所裁判官国民審査	49,620	54,426
30.4.23 市会議員選挙	49,758	54,581
30.4.23 市長選挙	"	"
30.4.23 市会議員選挙	"	"
30.4.23 知事選挙	"	"
31.7.8 参議院議員通常選挙	51,394	55,325
32.4.23 " " 補欠 " "	51,421	54,932
33.5.22 衆議院議員総選挙	52,573	55,277
33.5.22 最高裁判所裁判官国民審査	"	"
34.4.23 市会議員選挙	54,706	57,327
34.4.23 市長選挙	"	"
34.4.23 府会議員選挙	"	"
34.4.23 知事選挙	"	"
34.4.30 参議院大阪府選出議員補欠選挙	54,743	57,365
34.6.2 参議院議員通常選挙	54,760	57,375
35.11.20 衆議院議員総選挙	56,903	59,228
" " 最高裁判所裁判官国民審査	56,903	59,228
37.7.1 参議院議員通常選挙	61,174	63,806
38.4.17 市会議員選挙	64,038	66,875
" " 市長選挙	"	"
" " 府会議員選挙	64,040	66,875
" " 知事選挙	"	"
38.11.21 衆議院議員総選挙	64,385	66,197
" " 最高裁判所裁判官国民審査	"	"

参
考
統
計

三六九

選 挙 投 票 状 況

数	投 票 者 数		投 票 率 %			
	計	男	女	計	男	女
52,205	16,998	17,606	34,604	66.3	66.1	66.2
65,355	18,161	15,035	33,196	56.8	45.0	50.8
68,924	19,204	16,180	35,384	57.0	45.9	53.4
68,924	21,963	19,547	41,510	65.2	55.4	60.2
65,046	22,064	21,015	43,079	69.2	63.3	66.2
68,272	13,561	15,578	29,139	41.0	44.2	42.7
74,249	23,789	21,754	45,543	67.3	55.9	61.3
77,668	35,509	24,400	50,909	69.0	62.4	65.5
78,485	11,979	13,649	25,628	32.0	33.3	32.7
83,640	28,767	31,358	60,125	72.5	71.3	71.9
84,958	26,725	27,679	54,404	66.3	62.0	64.0
88,688	13,487	10,515	24,002	32.1	22.5	27.1
104,036	25,897	22,144	48,041	52.1	40.7	46.2
104,036	25,878	22,127	48,005	52.1	40.7	46.1
90,515	8,757	8,154	16,911	20.3	17.2	18.7
90,515	8,755	8,153	16,908	20.3	17.2	18.7
99,278	25,225	21,563	46,788	53.13	41.62	47.13
99,230	21,393	19,091	40,484	45.08	36.87	40.80
99,641	14,631	15,417	30,048	30.72	29.64	30.16
104,046	29,424	24,989	54,413	59.30	45.91	52.30
104,046	28,108	23,808	51,916	56.65	43.74	49.90
104,339	28,679	28,275	56,954	57.64	51.80	54.59
"	28,672	28,274	56,946	57.62	51.80	54.58
"	28,670	28,273	56,943	57.62	51.80	54.57
"	28,670	28,272	56,942	57.62	51.80	54.57
106,719	25,430	23,061	48,491	49.48	41.68	45.44
106,353	13,683	12,313	25,996	26.6	22.4	24.4
107,850	29,975	27,085	57,060	57.0	49.0	52.9
"	29,896	27,056	56,952	56.9	48.9	52.8
112,033	35,702	37,737	73,439	65.26	65.83	65.55
"	35,701	37,735	73,436	65.26	65.82	65.55
"	35,698	37,736	73,434	65.25	65.83	65.55
"	35,700	37,737	73,437	65.26	65.83	65.55
112,108	12,424	8,930	21,354	22.70	15.57	19.05
112,135	24,414	23,060	47,474	44.58	40.19	42.34
116,131	31,942	28,338	60,280	56.13	47.85	51.91
116,131	31,804	28,244	60,048	55.89	47.69	51.71
124,980	36,067	37,674	73,741	58.96	59.04	59.00
130,913	43,478	47,826	91,304	67.89	71.52	69.74
"	43,475	47,820	91,295	67.89	71.51	69.74
130,915	43,479	47,817	91,296	67.89	71.50	69.74
"	43,475	47,817	91,292	67.89	71.50	69.73
130,582	34,285	32,484	66,769	53.25	49.07	51.13
"	34,140	32,396	66,536	53.02	48.94	50.95

西
成
区
史
付
録

三六八

保安関係業者数調 (府警本部防犯部保安課・防犯課調)

○遊興飲食関係 (昭和元年末現在) (昭和四年一月一日現在)

総料理屋数 五〇〇 (昭和元年末現在) 一、四六四 (昭和四年一月一日現在)
小料理屋 一五〇 (昭和元年末現在) 一、一五〇 (昭和四年一月一日現在)
カフェエ 一三六 (昭和元年末現在) 一、一八七 (昭和四年一月一日現在)
ダンス教授所 一三三 (昭和元年末現在) 一、一八七 (昭和四年一月一日現在)
深夜飲食店 三二六 (昭和元年末現在) 一、一八七 (昭和四年一月一日現在)

○遊技場関係 (昭和元年末現在) (昭和四年一月一日現在)

総雀数 二〇〇 (昭和元年末現在) 一、四〇〇 (昭和四年一月一日現在)
麻雀 一〇〇 (昭和元年末現在) 一、四〇〇 (昭和四年一月一日現在)
パチンコ 一〇〇 (昭和元年末現在) 一、四〇〇 (昭和四年一月一日現在)
射的 一〇〇 (昭和元年末現在) 一、四〇〇 (昭和四年一月一日現在)
ゼットゲーム 一〇〇 (昭和元年末現在) 一、四〇〇 (昭和四年一月一日現在)
移動遊技 一〇〇 (昭和元年末現在) 一、四〇〇 (昭和四年一月一日現在)

○古物関係 (昭和元年末現在) (昭和四年一月一日現在)

古物商数 一、七〇〇 (昭和元年末現在) 一、四〇〇 (昭和四年一月一日現在)
古物行商数 八三三 (昭和元年末現在) 一、四〇〇 (昭和四年一月一日現在)
露天市場主 三二二 (昭和元年末現在) 一、四〇〇 (昭和四年一月一日現在)

夕選挙

■投票区別有権者数調 (基本選挙人名簿登録者数) 40.12.20現在

投票区	男	女	計
弘長	3,626	3,987	7,613
長萩	4,102	4,068	8,170
萩今	4,433	4,028	8,461
之茶	5,805	5,933	11,738
橋	5,705	6,150	11,855
松梅	3,257	3,408	6,665
梅玉	2,768	2,775	5,543
岸里	4,035	4,850	8,885
千本	5,799	6,969	12,768
津守	5,775	6,015	11,790
南守	1,791	1,646	3,437
津守	3,069	2,826	5,895
北守	1,963	1,756	3,719
山王	3,703	4,307	8,010
天下	5,832	6,590	12,422
計	61,663	65,308	126,971

西成区史年表 (明治以降)

明治元年	西曆
一	一八六八
二	一八六九
三	一八七〇
四	一八七一
五	一八七二

事 項

大阪城炎上 (九日)
大阪鎮台を置く (二二日)
大阪裁判所と改称、当地は同所司農局管下となる (二七日)
明治天皇住吉神社行幸の折、天下茶屋是齋屋に御休憩 (二〇日)
大阪裁判所を廢し大阪府を置く。当地は大阪府司農局管下となる (二日)
淀川大洪水 (二二日)
司農局南北に分れ、北司農局管下となる (八日)
摂津県に編入 (二〇日)
今宮村・津守新田・桜井新田等大阪市街近接のため大阪府に復歸 (下旬)
摂津県を廢し、豊崎県と称す (二〇日)
豊崎県を廢し、兵庫県に編入 (二二日)
木津村・勝間村・中在家村・今在家村等大阪府に復歸 (二〇日)
勝間村にて難民に粥施行 (玉出光福寺記録)
淀川下流に高潮 (一八日)
この年、千日前仕置場廢止、津守の稲荷神社、津守神社と改称
庄屋・名主・年寄を廢し、戸長・副戸長と改称 (二二日)
西成郡を五区四五組に分画し、今宮村西組を第一区二番組、今宮村東組を同三番組、津守